

PRESS RELEASE

令和6年度（第79回）文化庁芸術祭主催公演
新国立劇場 2024/2025シーズン 演劇

テーバイ

テーバイの地を舞台に、建国の祖カモスの末裔が辿る悲劇的な運命を描いた
『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』
3つのギリシア悲劇を再構成し、「一つの国が没落していく姿」を描く—！
「こつこつプロジェクト」から誕生した作品が登場



(上段 左から)植本純米、加藤理恵、今井朋彦
(下段 左から)久保耐吉、池田有希子、木戸邑弥



構成・上演台本・演出
船岩祐太



芸術監督
小川絵梨子

2024年11月7日(木)～24日(日) 新国立劇場 小劇場
2024年9月14日(土)10:00～一般前売開始！

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1

 **新国立劇場**
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

作品について

『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』

3作共通して登場するクレオンに焦点を当て、「国家と個人」を巡る等身大の対話劇にー！ 今までにない画期的なギリシア悲劇が誕生

1年間という期間の中で、参加者が話し合いや試演を重ねて作品理解を深めながら、より豊かな作品づくりをおこなっていき「こっこつプロジェクト」。この度、2021年6月から2022年2月まで行われた第二期の作品のうち、**船岩祐太**が構成、上演台本、演出を進めた『テーバイ』を2024/2025シーズンの演劇公演として上演します。

ソポクレスによる、知らずのうちに近親相姦と父親の殺害に手を染めたテーバイの王オイディプスの物語『**オイディプス王**』、テーバイを追放され放浪の途にあるオイディプスの神々との和解とその生の終幕を描いた『**コロノスのオイディプス**』、そしてオイディプスの娘であるアンティゴネが兄弟の埋葬をめぐり、テーバイの王・クレオンと激しく対立する『**アンティゴネ**』。

同じ時系列の神話をモチーフとしながらも独立したこの3作品を、船岩は「こっこつプロジェクト」の中で一つの戯曲として再構成し、現代における等身大の対話劇として創り上げました。古典と現代社会との接点を見つめ続け、単なるギリシア悲劇三作品のダイジェストではなく、オイディプスやアンティゴネに加えて、**三作に共通して登場するクレオンにフォーカスすることで「国家と個人」を巡る人間ドラマへと進化**。三作それぞれの作中では、一介の脇役に過ぎなかったクレオンが、なぜ王座に座り、国を亡ぼすことになったのか…。法と平和を理想に掲げる統治者が、恐怖と防衛心にさいなまれるさまを描きだします。

豊かな時間をかけ、トライアンドエラーを繰り返し、作品としての強度を増していった本作。**植本純米、加藤理恵、木戸邑弥**ら、「こっこつプロジェクト」から参加したメンバーに加えて、今回の上演に向け、**今井朋彦、久保耐吉、池田有希子**ら新たなキャストも迎え、さらなる進化を遂げます。どうぞ期待ください。

<「こっこつプロジェクト」での歩み>



【1stでの様子】台本の作成を目的とし、俳優たちとディスカッション



【2ndでの様子】稽古場での試演会の様子



【3rdでの様子】2022年3月に行われた最終試演会は、小劇場の舞台上で上演

<「こっこつプロジェクト」とは>

小川絵梨子演劇芸術監督が、その就任とともに打ち出した支柱の一つ、「演劇システムの実験と開拓」としてスタートした「こっこつプロジェクト」。一年間、3~4か月ごとに試演を重ね、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフが協議を重ね、上演作品がどの方向に育っていくのか、またその方向性が妥当なのか、そしてその先の展望にどのような可能性が待っているのかを見極めていくプロジェクトです。

あらすじ

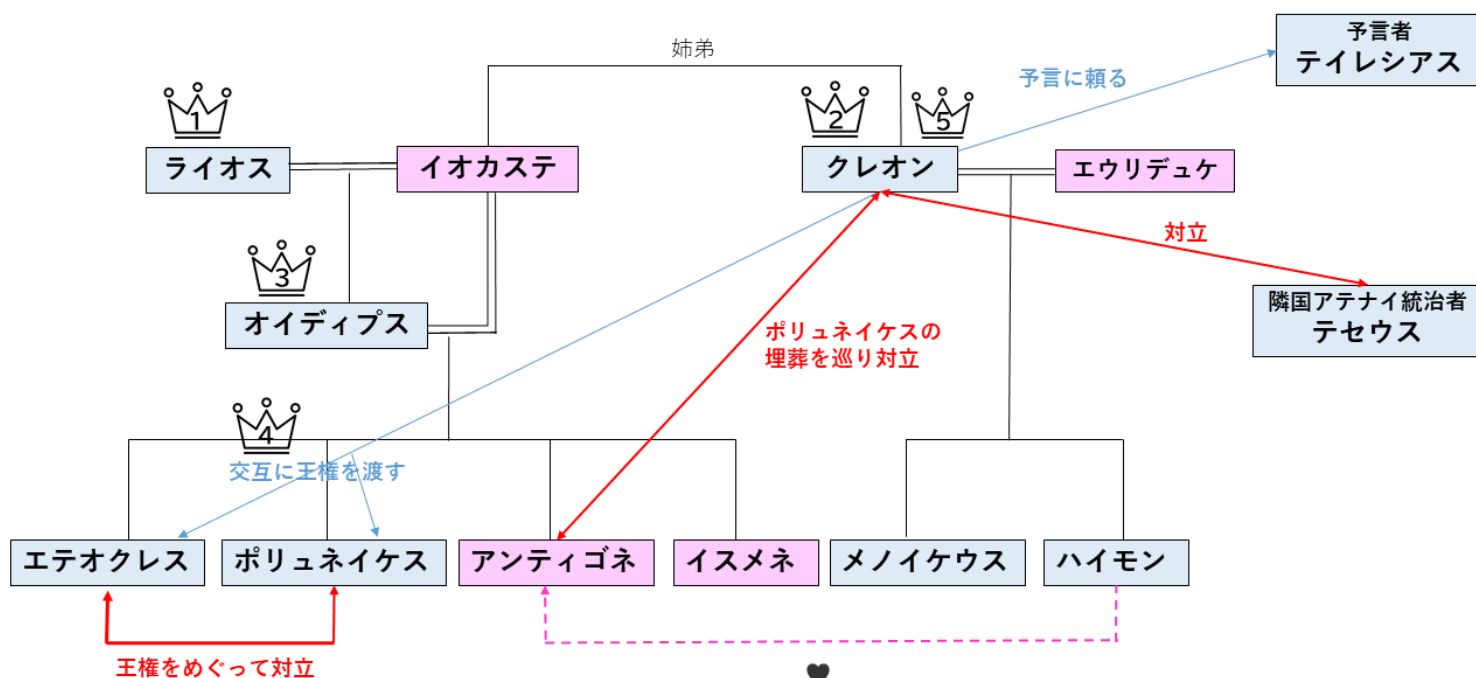
神々はまわりまわって 結局この王座を俺にあてがった
それは神々が結局はおれのような男が統治者にふさわしいと思ったからだ

テーバイの王オイディプス(今井朋彦)は国を災いから救うべく、后イオカステ(池田有希子)の弟クレオン(植本純米)に頼り「先王ライオスを殺害した犯人を追放すること」という神託を得る。しかし、そこで明かされていく真実は、オイディプス自身がライオス王を殺した張本人であること、そして実の母親とは知らずにイオカステを后とし、子をもうけているという恐ろしい運命であった。絶望のなかでオイディプスは自らの目を突いて盲目となり、放浪の旅に出る。

オイディプス追放後、クレオンが統治するテーバイではオイディプスの息子であるエテオクレスとポリュネイケスが王権をめぐる対立、戦いへと発展してしまう。さらにポリュネイケスの埋葬をめぐるオイディプスの娘アンティゴネ(加藤理恵)とクレオンは激しく対立。法と平和を司る統治者としてクレオンは厳しい決断を迫られる…。

配役

クレオン	—— 植本純米
オイディプス	—— 今井朋彦
アンティゴネ	—— 加藤理恵
テセウス ほか	—— 久保酎吉
イオカステ ほか	—— 池田有希子
ハイモン ほか	—— 木戸邑弥
イスメネ	—— 小山あずさ
テイレシアス ほか	—— 高川裕也
ポリュネイケス ほか	—— 藤波瞬平
神官 ほか	—— 國松 卓



構成・上演台本・演出 船岩祐太からのメッセージ

劇場が「上演する場所」だけでなく「創る場所」として何ができるのかを模索する「こつこつプロジェクト」。絶賛模索・展開中のこの企画の目的・意義は多様な受け止め方があるかと思います。「こつこつ」とは【地道に働くさま。たゆまず務め励むさま。】を表す言葉のようですし、長い時間をかけて何かを積み上げていく事が命名の根本にあるようですが、私はこの音の響きから雛鳥が卵の殻を少しずつ割っていく様子を想起します。多様な作品の卵が上演を前提としてしまうと孵化することを躊躇っているように思いますが「まずは卵から出しておいで、その後の事は飛べるようになってから考えよう」と優しく微笑みかけてくれる懐の広い企画であるように思います。

この地味ではありながらも壮大な試みの中で「一つ、こいつを飛ばしてみるか」という事で『テーバイ』が2024/2025シーズンのラインアップの末席に加えていただいたこと、非常に光栄に思っております。

「作り手が通常の一か月の稽古ではできないことを試し、作り、壊して、また作る場にしたい」という小川芸術監督の言葉を、額面通りに受け取り選んだ演目はソポクレスのそれぞれ独立した戯曲『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』を一本にしてしまおうという試みです。原典を手元に企画の趣旨に賛同してくれた多くの俳優たちの視点を擦り合わせながら、ああでもないこうでもないと作っては壊し、そして作ったものが今回の上演作品である『テーバイ』になります。

古典作品を題材にする喜びは現代と古典の接点の発見にあると思っておりますが、この作品を「こつこつ」している最中にも現代の方が目まぐるしく変容していきました。しかし、時代の変貌を物ともせずに変わらぬ人間の形相を照らしたギリシア悲劇の大きさを度々目の当たりにしました。稽古場はさながら遺跡発掘現場のようで「こつこつ」と鑿をたたくハンマーの音と発見の歓声が鳴り響いていました。

試演から少し時間がたってしまいましたし、現代の方もまた大きく動いています。新しい視点を得て、観客の皆様とギリシア悲劇から透けて見える現代や変わらぬ人間の形相を共有できるのを楽しみにしています。

スタッフプロフィール

【原作】 ソポクレス Sophocles

496 頃 B.C.—406 頃 B.C.

アイスキュロス、エウリピデスと並ぶ、古代ギリシアの三大悲劇詩人の一人。

生涯で 120 編以上もの戯曲を創作したと言われるが、完全な形で残っているのは『アイアス』『アンティゴネ』『トラキスの女たち』『オイディプス王』『エレクトラ』『ピロクテテス』『コロノスのオイディプス』の 7 作品のみ。



【構成・上演台本・演出】 船岩祐太 FUNAIWA Yuta

桐朋学園芸術短期大学芸術科演劇専攻卒業。地人会の木村光一氏、演劇企画集団THE・ガジラの鐘下辰男氏に師事。また小劇場から商業演劇まで様々な作品に演出助手、演出部として参加。2007年に演劇集団 砂地を結成。演劇集団 砂地では古典戯曲を原典とした作品を中心に発表。主な作品に演劇集団 砂地『Disk』(世田谷ネクストジェネレーション)『アトレウス』、『楡の木陰の欲望』『胎内』など。

出演者プロフィール



植本純米 UEMOTO Junmai ————— クレオン

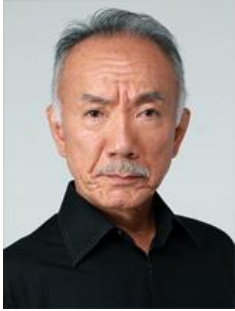
1989年から2023年まで劇団花組芝居に在籍。これまでの主な出演に大河ドラマ『光る君へ』『真田丸』『平清盛』、テレビドラマ『100の資格を持つ女』『ぼんくら』、テレビ『深夜劇場へようこそ』司会、ラジオ『劇ナビ!』インタビューなど活躍は多岐にわたる。

【主な舞台】『ライムライト』『中村仲蔵～歌舞伎王国 下剋上異聞～』『走れ☆星の王子メロス』『フェードル』『ジョン王』『十一夜 あるいは星の輝く夜に』『ベイジルトウンの女神』『イヌの仇討』『メタルマクベス』『アメリカ』『リチャード三世』『麦ふみクーツェ』『真田十勇士』『屋根の上のヴァイオリン弾き』『家康と按針』『日本人のへそ』『ピーターパン』『和宮様御留』など。新国立劇場では『サロメ』『雨』『山の巨人たち』『十二夜』に出演。

**加藤理恵** KATO Rie**アンティゴネ**

7歳から子役として活動を開始。2005年、ミスマガジン読者特別賞受賞。07年、スポーツ番組にアシスタントMCとして出演以降、スポーツキャスターとしても活躍の場を広げている。これまでの主な出演に映画『ツングースカ・バタフライ―サキとマリの物語―』『痣』、テレビドラマ『刑事7人』『十津川警部の事件簿』などがある。

【主な舞台】『あなたはエディット・ピアフを知っていますか？』『CLOSER』『NAVY PIER埠頭にて』『嗚呼、萬朝報』『祖国は我らのために』『マチワビ』『ペールギュント』など。

**久保酎吉** KUBO Chukichi**テセウス** ほか

早稲田大学演劇研究会から、早稲田「新」劇場とその後身のDA・M、演劇集団MODEを経て、舞台や映像など活動の場を広げる。これまでの主な出演に映画『罪と悪』『シェアの法則』、連続テレビ小説『虎に翼』などがある。

【主な舞台】『無頼の女房』『夢の泪』『欲望という名の電車』『きらめく星座』『蜘蛛巣城』『腹黒弁天町』『ザ・ドクター』『雨』『Op.110 ベートーヴェン「不滅の恋人」への手紙』『月の獣』『お気に召すまま』『しゃばけ』『祈りと怪物～ウィルヴィルの三姉妹～』など。新国立劇場では『私の一ヶ月』『パーマ屋スマイル』『山の巨人たち』『氷屋来たる』『マクベス』に出演。

**池田有希子** IKEDA Yukiko**イオカステ** ほか

ミュージカル、ストレートプレイ、ドラマ、映画、吹き替えなど幅広い活動を展開。『青ひげ公の城』『阿国』で第11回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。これまでの主な出演に映画『いしゃ先生』、声の出演に『パワーパフ・ガールズ』などがある。

【主な舞台】『Bats In the Belfry』『HOPE』『マチルダ』『スラムドッグ \$ミリオネア』『燦爛七銃士―幕末エクスプレス 1867―』『BLUE RAIN』『プリシラ』『道 La Strada』『アメリ』『SMOKE』『ピノキオ～または白雪姫の悲劇』『愛の唄を歌おう』『しゃばけ』『リトルショップ・オブ・ホラーズ』『円生と志ん生』『ナイン』など。新国立劇場では『東京ゴッドファーザーズ』『美しきものの伝説』に出演。

**木戸邑弥** KIDO Yuya**ハイモン** ほか

2006年、第19回ジュノン・スーパーボーイ・コンテスト審査員特別賞受賞。以降、テレビドラマ、舞台、ミュージカルなど活動の場を広げる。これまでの主な出演に大河ドラマ『鎌倉殿の13人』、テレビドラマ『合理的にあり得ない』『37.5℃の涙』『ごくせん』、映画『コインランドリーカタルシス』など。

【主な舞台】『ビロクシー・ブルース』『Our Bad Magnet』『チューザレ 破壊の創造者』『BE MORE CHILL』『春、揺らぐ、勿忘草』『GLORY DAYS グローリー・デイズ』『家族のはなし』『COOON 月の翳り星ひとつ』『ドリアン・グレイの肖像』『Hamlet』『ダブリンの鐘つきカビ人間』など。

**今井朋彦** IMAI Tomohiko**オイディプス**

舞台を中心にドラマ、映画、ラジオ、CMなど、幅広く活躍する傍ら、演出家としても活動。1996年、『水面鏡』で第31回紀伊國屋演劇賞個人賞、2001年、『コペンハーゲン』『こわれがめ』『職さがし』で第9回読売演劇大賞優秀男優賞、11年、『破産した男』で第62回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

【主な舞台】『未来少年コナン』『中村仲蔵～歌舞伎王国 下剋上異聞～』『月とシネマ2023』『カミの森』『ショウ・マスト・ゴー・オン』『こどもの一生』『アーモンド』『4』『アリージャンス～忠誠～』など。新国立劇場では『ヘンリー四世』『リチャード三世』『ヘンリー六世』『カエル』『コペンハーゲン』『うら騒ぎ ノイズズ・オフ』『ゴロヴリョフ家の人々』『怒濤』に出演。

公演概要

【タイトル】 テーバイ

【原作】ソポクレス『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』

【翻訳】高津春繁(『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』)、呉 茂一(『アンティゴネ』)による

【構成・上演台本・演出】船岩祐太

【美術】土岐研一

【照明】松本大介

【音響】信澤祐介

【衣裳】山下和美

【ヘアメイク】高村マドカ

【アクション】亀山ゆうみ

【演出助手】朝倉エリ

【舞台監督】野口 毅

【芸術監督】小川絵梨子

【主催】文化庁／新国立劇場

【キャスト】

植本純米、加藤理恵、久保耐吉、池田有希子、木戸邑弥、高川裕也、藤波瞬平、國松 卓、小山あずさ、今井朋彦

【会場】新国立劇場 小劇場

【公演日程】2024年11月7日(木)～24日(日)

※開場は開演の30分前です。

【料金(税込)】

A席 7,700円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

【一般発売】2024年9月14日(土)10:00～

＜お得なセット券のご案内＞
2024/2025 シーズン演劇 開幕3作品通し券
『ピローマン』『テーバイ』A席、『白衛軍』S席のセット

料金(税込) 21,700 円
お申込先: 新国立劇場ボックスオフィス
(電話と窓口のみ)

※3作品のいずれかが完売、または10月『ピローマン』公演が終了した時点で通し券の販売は終了します。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **Z席1,650円** Z席(各日10席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】

日時: 11月20日(水)終演後

出演: 船岩祐太、植本純米、加藤理恵、今井朋彦

司会: 中井美穂

入場方法: 本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。

目や耳に障がいのあるお客様への観劇サポート

本公演では視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへ、観劇サポートをご提供いたします。

※サポートは無料。要予約、定員あり。

<p>視覚障がいの方への 開演前舞台説明会&リアルタイム音声ガイド</p>	<p>① 11月17日(日) 13:00 開演 ② 11月19日(火) 14:00 開演</p>
<p>聴覚障がいの方への ポータブル字幕機の貸し出し</p>	<p>① 11月16日(土) 13:00 開演 ② 11月19日(火) 14:00 開演</p>



劇場前の表示



受付には、手話通訳者と要約筆記者も



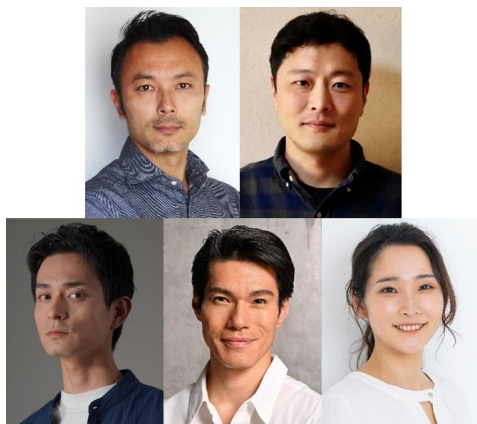
開演前舞台説明会の様子



舞台模型に触って、形状を体感している様子

現在進行中の「こっこつプロジェクト」

こっこつプロジェクト Studio 公演『夜の道づれ』



『ターバイ』と同じ第二期で、京都を拠点に活躍する劇団烏丸ストロークロック主宰・柳沼昭徳がディベロップメントを重ねたのは、三好十郎作『夜の道づれ』。

3rdでの試演会后、さらに作品がどう深化していくか見てみたいという評価を受けて、引き続き第三期メンバーの一人として、今年プロジェクトが再始動。「Studio 公演」として2025年4月に上演します。

【公演日程】2025年4月

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】三好十郎

【演出】柳沼昭徳

【キャスト】石橋徹郎、金子岳憲、林田航平、峰 一作、滝沢花野

「こっこつプロジェクト」第三期スタート！



2024年夏よりスタートする第三期には、第二期から継続して参加する柳沼昭徳に加え、新たに栗原崇、鈴木アツの二人の演出家が参加します。

第三期 参加演出家

- 栗原 崇
- 鈴木アツ
- 柳沼昭徳

連絡先変更のご連絡

新国立劇場制作部演劇 杉田 行

F A X : 0 3 - 5 3 5 2 - 5 7 3 7

公演資料送付先の変更や追加、また送付停止のご要望がありましたら、本紙にご記入の上、上記番号宛てにFAXでお知らせいただくか、下記へメールでご連絡いただければ幸いです。

(メールアドレス=sugita_a8863@nntt.jac.go.jp)

貴社名 _____

部署 _____

ご担当者 【旧】 _____

【新】 _____

↓ ご変更箇所のみ以下にご記入ください ↓

ご住所 〒 _____

お電話 _____ F A X _____

E-mail _____

通信欄 _____
